

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600116		
法人名	社会福祉法人ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた湖山亭		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月13日	外部評価確定日	平成31年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成26年4月1日より開設し、丸5年が過ぎようとしています。「自分らしく、ほがらかに」の理念の基、入居者様の立場に立って、いつまでも自分らしく、ほがらかに、のんびりと安心して暮らせる環境をつくれるよう支援に取り組んでいます。また、スタッフは認知症についての知識や理解を深めるために、研修会や勉強会に参加し、自身で学んだことを職場で共有できるよう、参加出来ないスタッフの為に資料を回覧しています。そうすることで、ケアの向上と情報の共有に努めています。</p> <p>共同空間からの景色は鬼の鼻山や広い池が広がり、冬には越冬する鴨が泳ぐなど、四季折々の自然の移ろいを眺望でき心和む環境となっています。入居者様には「どこかの別荘にいるみたい」と大変好評です。また、家族様や見学者が見えた時にも同様なお誉めの言葉を頂いており景観の良さが自慢でもあります。とにかく法人全体が自然豊かで、敷地内にある『美彩の森』は車椅子でも利用できるよう整備されており、天気の良い日には散歩に出掛けたり、お茶やお菓子、時には、花見をしながら手作りお弁当を職員と入居者様と一緒にいただきながら景色を楽しんでいます。</p> <p>季節を感じられるような行事にも力を入れており、お月見会や運動会等、隣接するグループホームきたがたとの合同開催で地域の方や家族様が参加できる環境づくりにも努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の眼下に広がる湖とその遠方に見える山々が織りなす景色は、利用者もお気に入り、心を和ませ、季節の移り変わりを感じさせてくれる自然環境豊かな所である。</p> <p>「自分らしく、ほがらかに」の運営理念を実現すべく、職員は心一つにして力を合わせ、どこまでも利用者を主体とした支援に日々取り組んでいる。利用者を人生の先輩として敬い、利用者から助けられ、教えられることも多く、職員と利用者は信頼関係が結ばれている。また、職員は家族が何でも相談や意見が言えるような雰囲気づくりを心がけている。介護計画も、利用者や家族の意向に沿った利用者主体の計画である。一日の流れも利用者のこれまでの暮らしを継続した柔軟な支援である。</p> <p>また、地域の一員として地域での活動や地域住民との交流に取り組んでいる。地域での掃除では高齢化している地域住民から頼られてもいる。地域の方と一緒にしてお月見、近所の方や消防団の協力を得ての避難訓練、ホームを一步出たの下校中の小中学生の見守りや、「お帰り」声かけ、いただいた柿での干し柿づくりなどの交流も多い。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、毎日の朝礼で唱和を行い、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉えている。ケアの事で迷った時は理念に戻り、入居者の権利や尊厳が損なわれないよう、職員で話し合ったケア目標を基に実践を日々チームで行っている。	地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく暮し続けるための支援を念頭において、開設時に事業所独自の理念を全職員で創っている。理念の唱和は、初心に帰り、同じ方向を向いての支援に結びついている。日々理念を意識しながらの支援である。理念とともに「職員風紀5項目」が掲げられており、介護職に従事する職員としての規範もしっかりと守っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、併設のグループホームきたがたと合同で、お月見会を開催し地域やご近所の方へ参加を呼びかけている。地域の行事(敬老会など)にも無理のない程度に参加しご近所様や顔なじみの方との交流が来ている。	地域の自治会にも加入している。毎月の地域の溝掃除には職員が交代で参加して地域の役割の一旦を担っている。大学生の介護実習や中学生の職場体験の受け入れ、ホーム近くを下校中の小中学生を利用者と一緒に見守る活動、おくんちの子供浮立の訪問、近所からの野菜の差し入れ、地域の方も参加しての月見会、認知症についての相談にのる等、いろいろな交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所付き合いを大切に、近所の方の相談事を、日常会話の中から受ける事もあっている。そのような時には、実践を通じて培った認知症の人の理解や支援方法を活かし接するよう努めている。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修、2ヵ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言、市の新たな取り組みや地元の情報等活発な話し合いがあっている。そこでの意見や助言はサービスの向上に活かしている。	年に6回(事業所単独で3回、隣接の事業所と合同で3回)の開催である。入居者の状況、行事実施状況、研修会の内容などの報告後、活発な意見交換が行われている。地域からの情報や地域の方も参加しての行事の反省、事業所としての課題の共有、外部評価結果の公表等話題も多く、その後の支援に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況を、市の担当者に連絡を行い、連携を取りながら生活に支障が出ないようにしている。また、分からない事や問題が出た時は、市役所などへ相談したり、出向いて協力関係を築いている。	運営推進会議時だけでなく、機会を見つけて管理者が行政の関係諸課に出かけたり、電話で相談や報告をすることで連携を図っている。運営推進会議後に新たに生じた課題や利用者の状況、公的援助に関する事、成年後見人に関する事、申請書類の提出、選挙の投票支援など、多岐にわたって協力関係が結ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会や、研修で身体拘束によるリスクについて理解している。また当ホームでは、定期的に勉強会を行っている。やむを得ず、手すりコールやセンサーマットを使用する際も、家族に了承と理解を得、注意点の周知と定期的なカンファレンスを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関開錠について現在は、不法侵入防止の為、職員の数が多いう場合は開錠も行っている。また、解錠に向けての定期的なカンファレンスも行っている。	法人や事業所独自での勉強会、外部研修で身体拘束が及ぼす弊害について十分に認識しており、身体拘束のない支援に取り組んでいる。指定基準における禁止項目や虐待行為はこれまでに事例はない。常時ではないが、防犯上、止むを得ずに玄関の施錠をしている。利用者が外出を希望する場合や、その素振りが見えた場合は一緒に同行しての支援である。非常口は、外に出た所が階段状になっていて危険性もあるので、普段は施錠している。スピーチロックによる心の拘束も無いように、言葉かけには特に留意している。	家族の理解を得ての、昼間の玄関施錠であるが、その解消に向けてのカンファレンスも数回行われており、その成果に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会や外部研修において、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について学び話し合う機会を設けている。必要な時は、家族と話し合い、理解を求めたり、職員は虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだことは皆で共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い、成年後見人制度や安心サポートの利用を検討出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても、十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い、納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、日々の会話から意見、要望を聴く機会が多く、可能な限り実現出来るよう努めている。家族には面会や担当者会議時、必要時は電話等で、意見、要望を聴いたり、毎年アンケート実施を定めている。また第三者窓口について説明しホーム内に提示、苦情受付箱を設置している。	家族の面会時には、必ず声をかけ、笑顔のある応対で、何でも相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族アンケートも実施しており、その結果については、定例の会議で検討し、家族にも伝えている。管理者は「家族から厳しく言ってもらった方がサービスの向上になる」との考えである。ご意見箱も設置し、相談苦情窓口についてもきちんと説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や必要時に、職員から意見や提案があった場合は、代表者や管理者はその内容を検討し、可能な限り意見や提案を運営に反映させるようにしている。	定例の会議や日常の業務の中で遠慮なく話ができる職員風や人間関係である。打ち合わせ、勉強会、個人面談、作文提出等意見を表わせる機会が多い。外部研修内容の伝達方法、利用者との信頼関係を深める対応、利用者が楽しめるような行事の工夫、ドライブ時の法人所有車の効率的な使用方法、調理専門の職員配置、勤務体制の柔軟な変更等、毎日の支援や運営に活かされている例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価や作文を職員全員に提出してもらい、個人面談も行っている。また主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修に参加した職員を中心に、職員一人一人の能力や力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催、ケアの実践に繋げている。また施設内外の勉強会や研修に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人力的余裕があれば職員を外部研修会に参加させ、そこで知り合った同業者の方と情報交換を行ってもらっている。また、お月見会では他事業所の方を招き同業者との交流や意見交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、可能であれば本人に会い、さりげない会話を通じて相互理解を深め信頼関係を構築し、情報収集に努めている。情報は職員全員に伝え共有し、関係作りがスムーズに出来、安心して本人が過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際や入居申し込みの際に、困りごと、不安なこと、要望等に寄り添い、傾聴し、安心出来る情報提供に努め、家族の抱える想いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用が出来るよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えておられる問題について、家族や本人、担当介護支援専門員から十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設等の提供または紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野において、能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の知恵や手順等を、助言してもらう事により、互いに助け合い生きがいを持って生活できるよう配慮している。また、昼食は職員とスタッフがホームで調理した料理を一緒に食べている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、必要用品を届けてもらったり、病院受診後に外食をされる等、協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、また家族が負担に感じられないよう、家族にも寄り添いながら、共に話し合い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の訪問や、家までのドライブ、地域の敬老会に参加し馴染みの方々と会う機会を作るよう努めている。また選挙に行かれる等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。盆や正月に家族と一時帰宅したり、墓参りに出かける入居者様もいる。	これまで本人を支えてくれたり、また、支えてきた人間関係や、思い出の場所などの把握に努め、支援に結び付けている。自宅近くの方や、職場の後輩だった方も面会に訪れている。家族の協力で、馴染みの美容室に出かけたり、お墓参りや自宅に泊まる方もいる。紅葉見学に行き、「ここには、久しぶりに来た」との声が聞かれたり、その帰りに懐かしい名物の饅頭を買って帰り、おやつとして賞味したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同空間で会話やトランプ等をしてすごされる事が多いが、聞こえにくさが会話に繋がらない時や、輪の中に入れない方には、職員が間に入りつなぎ役をする事で孤立が無いように支援している。居室での生活が多い方には、他の入居者様が毎日新聞を届けたり、様子を伺いに職員と他入居者様とで訪問し会話する事で孤立のないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、出来る限り面会や様子伺いを行い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人や家族への、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様との関わりの中で、心に寄り添いながら、細やかな観察を行い、その中から本人の希望や意向を引き出し、表情や会話の中の呟き、行動から発せられるサインも見逃さないよう努めている。家族の面会の際は、希望や意向を尋ね、その内容に沿ったサービスを心がけ、困難な場合は、本人本位になるよう家族に協力を依頼している。	利用者との日々の関わりの中で声をかけ、会話を交わしながら把握に努めている。利用者同士の会話や、言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情からその心を推測したり、それとなく確認することもある。おやつやレクリエーションの時間、利用者との1対1の対応である入浴の時間などは、利用者の思いを聴ける時間でもある。利用者の担当制は、利用者との信頼関係がより深まり、その情報を共有し、支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族に会い、これまでの生活歴、馴染みの暮らし方等尋ね、フェイスシートに記入し、全職員が把握できるようにしている。入居後も本人や家族との関わりの中で、常に情報収集に努め、本人の想いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケースに1日の過ごし方、心身の状態や有する能力等を記入、職員が出勤時に必ず目を通すことで、現状把握に努めている。また状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し、情報の共有や迅速な対応が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護職員、主治医の意見内容を踏まえ、担当者会議で検討して出た、様々な意見やアイデアを勘案、介護計画を作成している。状態変化時は、随時個別カンファレンスを行い、ケアの統一を図ることで、現状に即したサービスになるよう努めている。	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の意向や要望を聴き、利用者主体で個別的、具体的な介護計画が作成されている。本人を支えるために家族からの実に細やかに要望を聴き、計画にはそれが反映されている。本人がより良く暮らすための支援として何が必要かを、その時点に沿って利用者本位に家族と全職員で検討した介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに、日々の様子や変化、工夫した事、またケアプランに沿って実践した結果や気づきを記入、職員は出勤時に必ず目を通し、共有に努めている。また情報を踏まえて、常に意見や提案を出し合い、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、本人を取り巻く環境で生まれる、その時々ニーズに応じ、十分に話し合う機会を設け対応する事で、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。お月見会に地域住民の方をお誘いし、歌等を披露し合うことで、お互いの力を発揮して楽しめるような環境作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。また、内科や眼科の往診、歯科訪問診療の利用も支援している。	利用者一人ひとりのこれまでの受診経過の把握ができています。入居後の医療機関について相談している。これまでのかかりつけ医の受診継続を希望する方がほとんどで、希望に沿った支援が行われている。利用者の不安がある時や家族の事情や、家族同行でも利用者に不安がみられた時は、職員も同行支援をしている。調査日にも職員同行の受診があり、受診結果について、家族と管理者に報告が行われていた。協力医療機関からは定期的な往診と、利用者の状況で、いつでも相談や受診ができる体制ができています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の健康状態の把握に努め、訪問看護師と契約しており24時間連絡可能な体制を整えている。状態が変化した場合は、看護師に報告相談し、医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、日頃の生活状態等の情報提供を行っている。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者が、安心して治療が受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームでできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は看取りの体制が整った併設施設に繋ぐ事もある。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、契約時に十分説明し、同意を得ている。利用者の状況の変化に合わせて主治医と密な連携を取りながら、家族の意向を確認し、利用者にとって最善な方向になるように支援している。これまでに、看取り介護について、よりその体制が整っている併設施設での看取りを望まれ、その意向を尊重している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。また、内部でも同様のテーマで勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団・婦人会に協力を仰ぎ、地域と一体になった避難訓練を実施している。また、法人の安全管理委員会に、職員が所属しており、防災知識向上への取り組みがなされている。また、災害時の避難場所にもなっており、地域の防災避難訓練にも参加した。	火災を想定した避難訓練を年に2回実施している。夜間想定の場合は、実際に暗くなってからの訓練である。訓練は、利用者も参加して行われている。訓練実施について近所の家庭にも事前にお知らせをして、無用な混乱が起こらないように配慮している。訓練結果についての反省会議をもち、運営推進会議でも報告している。消防計画に基づく点検等も確実に実施している。備蓄は、併設施設で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者と職員の距離感を気付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。入居者様を呼んだり言葉掛けをする際は、苗字にさん付けとしている。	利用者一人ひとりの尊厳の尊重をすべての支援の基礎にしている。利用者がこれまでに抱えてきた人生観や人生歴を把握し、誰もが持っている誇りを大事にして、利用者として接している。あからさまな介護や声掛けでの誘導で、本人の誇りを損なうことが無い支援である。居室に職員が入る場合は、許可を得てからの入室である。居室の表札は氏名で無く、代わりに花をデザインしたものを目印として掛けているのも、プライバシーに配慮した工夫である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や想いの表出ができるよう、雰囲気づくりや職員の振る舞い、言葉掛けにも工夫している。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。散歩や買い物に出られたり、絵を描くなど、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて訪問理容師を頼み、本人の希望に沿ったヘアスタイルにして頂いている。愛用品のヘアトリックや化粧品等がなくなった場合は、買い物支援で購入される。また、起床後の洗顔をされる際、毎日ブラシを洗面台に置いておくと、鏡を見ながら整容が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴を大切に食後のコーヒーを楽しめる方は気兼ねなく飲んで頂かれるように言葉掛けをし提供したり、誕生日には希望により外食や好きなメニュー、行事には特別メニューを用意し、昼食は必ず職員と共に食卓を囲む機会を設けている。 また、食材が届いた際は、一緒に運んだり仕分けを行っている。	職員も利用者と一緒に、同じ食事をいただいている。利用者にさりげなく支援の目を向けての食事である。配達された食材を料理専任のパート職員が調理をしている。献立には、家庭で慣れてきた嗜好食を取り入れたり、パン食を希望する方にも、それに応えている。おやつは手づくりのものが多く、利用者の茶碗や箸、湯呑みは持参したものである。食事の手伝いについては、その方の自発的な意思に任せながらの支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の管理栄養士が作成した献立に基づき調理し、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。10時には好みの飲み物を提供する等変化をつけ、水分量の確保に努めている。 また、食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングを促し、磨き残しについては、職員が一部介助することや必要な時は歯科訪問診療時に指導を受け、清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、排泄用品・用具の選定、さりげない言葉かけやパット確認を行い失敗の減少に努め、安心して自立出来るよう支援を行っている。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや動作の手順をゆっくり説明し、一部介助を行うことで不安の軽減へ繋げている。排泄の失敗があった時は、羞恥心に考慮し素早い対応をし自尊心を傷つけない言葉掛けをおこなっている。	排泄チェック表の活用や、排泄のサインなどの観察から、一人ひとりの排泄時間や習慣が把握され、その方に応じた支援が行われている。夜間はポータブルトイレ使用の方もいるが、昼間はトイレでの排泄が出来るようにと支援している。排泄が自立している方もそっと見守っている。着衣が濡れていると他の利用者の声にも、羞恥心を察して、何気ない様子で対応している場面もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の把握に努め、献立には食物繊維やヨーグルト、オリゴ糖等の食品を取り入れることで、便秘予防に努めている。また、個々に合わせた支援を心がけ、散歩や軽運動も促している。慢性の便秘の方には、医師や訪問看護師と連携を図り、服薬のコントロール等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮し、場合によっては同性での対応を行い、ゆっくりと入浴出来るよう個々になっている。湯温や手順等個々の希望に合わせて、身体リスクのある方には、安全面を考慮している。またお断りされる時には、無理強いはせずコミュニケーションや別日に対応している。 全員が毎日の入浴をするというのは難しいが、入浴が無い日は必要であれば足浴を行い満足感に繋がるような支援を行っている。	基本的な入浴日はあるが、希望する方には、何時でも入浴が可能である。お湯の温度もその方の好みに合わせ、入浴順や入浴時間にも別に制限はなく、ゆっくりとした入浴である。夕食後の入浴希望だった方も現在は、昼間の入浴に慣れてもらっている。入浴を断る方には足浴をしてもらい、その後に入浴を勧めている。浴室や脱衣場には暖房装置を設置してある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて、居室や畳の間等で寛いだり、午睡をされている。就寝前は、居室でテレビを視聴したり、共同スペースで気の合う方と談笑されている。また、室温・湿度調整も随時行い、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の言葉掛けや飲み物を提供し援助を行うことで安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能・副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっている。一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵や歌、レクリエーション等の楽しみ、洗濯物畳みや拭き掃除等家事全般、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごせるよう支援している。また、近所の散歩や買い物、ドライブ、墓参り等へ出掛ける支援を行っている。毎朝仏様のお茶を入れ替えるという支援を行うことで、欠かさずお参りをされ1日を迎えられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等は個々の希望や行事に沿って行い、近所のスーパーにて嗜好品を購入してもらおう等、出来る限りの希望に添えるよう努めている。本人の希望で家族にも協力して頂き、郵便局等や、入院中の家族に会いに出掛けたりと、家族との外出が継続できるよう支援している。	ホーム周辺を散歩したり、素晴らしい景色を見ながら気持ち良い太陽の光を浴びることも多い。散歩コースは車椅子使用の方も散歩ができる。近くの「美彩の森」でお茶やおやつも楽しめる。お店で買い物をしたり、職員と一緒にゴミ出しに行く方もある。年間行事計画に沿った孔子廟や西溪公園までのドライブは利用者の楽しみでもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、自己管理出来る一部の方は、お金を所持されており、百貨店などに行き衣類を購入されたり、外出した際に好きな食べ物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をかけたたりかけられたり等している。一部携帯電話を持ち込まれており、好きな時に家族と電話で話されている。毎月のホーム便りでは近況報告を行っている。また定期的に電話を頂くご家族には、日々の様子を詳しくお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルや壁には季節の花や作品を展示している。廊下の隅には観葉植物を置くなど、季節感や生活感を大事にした設えを心がけている。また、湿度・温度調節も細めに行い、人的環境にも気を遣い、居心地よく過ごせるよう支援している。	室内全体に掃除が行き届き、清潔感がある。リビングから見える山と湖が一体となった風景は、利用者の心を和ませている。テーブルに生けられている早咲きの菜の花は、季節を感じさせる。ウッドデッキには一緒に育てているプランターが置かれ、食事やお茶の場所にもなる。畳の間もあり、利用者の関心を引く本が並んでいる。三か所あるトイレは、利用者の状況に応じての排泄支援がすぐにもできる配置である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキのベンチや玄関の椅子に座って過ごす方、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、昔話をされる方々、ソファーに座りTVを観る方等、各自ゆっくりとした時間を過ごしておられる。また、畳の間ではソファーに横になり、一人で過ごす時間も大切に出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビやソファー等愛用の品物や位牌を持ってきて頂き、馴染みの品物を置き使用して頂く事で、不安なく安心して過ごして頂く工夫をしている。また自室でテレビを観たり、窓からの景色を描いたり、一人で本を読まれたりと、居心地の良い場所となっている。	長年馴染んだ物や好みの品の持ち込みに制限はない。どなたの居室も利用者の個性やこれまでの暮らしを思わせ、利用者が落ち着いてゆっくりと過ごすことが出来る場所になっている。整理用の箱、椅子、テーブル、時計、テレビ、お気に入りの服、ご主人のご位牌、また、趣味の生け花や書道作品、風景画、スタッフに頼んで買った歌の本など、いろいろな物を見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を把握し、トイレや居室に迷われる方のためには、道標や表示を掲示し、不安や混乱の軽減に努めている。また、廊下やトイレ浴室等には、手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない